

佛教大学福祉教育開発センター事業 地域福祉フィールドワーク 紫野へいこう！

活動場所：北区 活動開始：平成23年9月～

むらさきっず
(佛教大学)



紫野学区社会福祉協議会
パープルフレンズ、フナッツ
紫野カルチャー亭運営協議会

■ 地域が抱えていた課題

北区紫野学区は高齢化率が高く、特に一人暮らし高齢者の支援が課題となっている。昨今の地域における人々のつながりの希薄化、高齢者のひきこもりや孤立死・孤独死の増加が危惧されている。

さらにこの地域は、地震時などに著しく危険な密集市街地にも登録されており、防火・防災対策が必要な地域である。

■ 取組（連携）のきっかけ

東日本大震災をきっかけに、一人暮らし高齢者の防災意識の向上と孤立化の防止を目指し、紫野学区社会福祉協議会、紫野カルチャー亭運営協議会、佛教大学の学生などの連携・協力のもと、一人暮らし高齢者を中心としたグループ「パープルフレンズ」が結成され、佛教大学の学生グループ「むらさきっず」が活動をサポートすることになった。

■ 具体的な連携の取組

「パープルフレンズ」の歌練習「つどい」や「カフェ紫野」（各月2回）への支援、地域の伝統行事への参加、「北区民まちづくり提案支援事業」の実施協力などを行っている。

高齢者の力や可能性を感じながら、一人暮らし高齢者がより生き活きと、地域で自分らしく暮らすためにはどうすれば良いのかを地域住民とともに考えながら日々取り組んでいる。

■ 今後の活動

平成27年度に学びと交流を目的に開催した「紫野シニア大学」は、他の地域からも幅広い年齢層の参加があるなど大きな反響があり、第二弾の開催を期待する声がある。また、紫野小学校の児童と歌の練習を行うなど、新たな地域住民との関わりも増えた。

今後は、子どもから高齢者まで様々な年齢層の地域住民に関わりながら、地域が抱える課題解決や地域の活性化に向けた活動を展開していきたい。

■ 成果

①大学・学生の視点

「つどい」や「カフェ紫野」では、季節にまつわる企画などを学生が行うことで、より楽しい集まりの機会となっている。学生は高齢者から生活の知恵を学び、高齢者は「学生から元気をもらえる」など、相互に刺激しあいながら取り組むことができている。また、地域行事と一緒に参加することで、紫野学区の文化や魅力を感じることができる。

活動を通して、参加者一人ひとりの個性を互いに認知することで、高齢者を一括りにするのではなく、一人の人間として関わることの大切さを改めて感じている。

②地域の視点

「つながりづくり」

活動への参加を通して、高齢者同士のつながりができることで、社会的孤立の解消と災害時の安否確認に役立ち、いざという時の助け合いの輪ができる。

「居場所づくり」

活動自体が地域住民とつながる「居場所」となることで、外出するきっかけができ、ADLの維持向上にも結び付いている。

「生きがいづくり」

学生が活動に関わり、世代間で交流することによって、相互に刺激し合い、心も健康になる。

活動写真



クリスマス会



やすらい祭



敬老会での歌披露



交通安全パレード



紫野小学校でのカフェ



大学で淡路の社協と交流



学まちコラボ事業（平成25年度採択）
北区民まちづくり提案支援事業（平成24～27年度採択）

まちづくり事例集掲載事業